

聖霊降臨の主日

2013.5.19

ヨハネ 14・15-16,23b-26

今日、私たちは聖霊降臨の祭日を祝っています。この祭日に祝うのは、今日の第一朗読で聴いた、「使徒たちの宣教」に語られている出来事です。十字架の死を経て復活し、父なる神のみもとに行かれた主キリストが約束されていたとおり、五十日祭の日に弟子たちの上に聖霊が下った有様を「使徒たち宣教」の著者は語っています。世界の各地からエルサレムに帰っていた大勢のユダヤの人々やユダヤ教に改宗した異邦の人々は、聖霊降臨を体験した弟子たちが語ることを、各々の生まれ故郷のことばで理解することが出来たと言われています。そして、この不思議な出来事に遭遇した人々はあっけにとられ、驚き怪しみつつ、「話しているこの人たちは、皆ガリラヤ人ではないか、どうして私たちは、めいめい生まれた故郷のことばを聞くのだろうか。・・彼らが、私たちのことばで神の偉大なわざを語っているのを聞こうとは。」と叫んだと言われています。弟子たちが語り、人々が自分たちのことばで理解することが出来たことは、神の偉大な業についてであった使徒たちの宣教の著者は私たちに告げています。そしてこの神の偉大なわざとは、今日の箇所が続いて語られるペトロの説教から明らかなように、十字架につけられて死んだ、ナザレのイエスを神は死者の中から復活させられたということであり、死者のうちから復活されたイエスは今や父なる神の右の座について、いのちの主として、全ての人の救い主とされたということです。聖霊降臨の恵みを受けた弟子たちはこのような神の偉大な業を証する証人となり、その弟子たちの宣教は世界の国々から来た人々が自分たちのことばで理解することが出来るものとなった、これが聖霊降臨によって実現された聖霊の働きであると、「使徒たちの宣教」の著者は語っています。そのように理解すると、聖霊降臨の日の出来事は私たちとは全く無縁の摩訶不思議な出来事ではないことが分かります。

私たちも最初の弟子たちから始まった教会の宣教を通して、自分たちのことばで神がイエス・キリストにおいてなさってくださった偉大なわざを知ることが出来、それを信じて、信仰の道に入った者たちだからです。私たちに必要なことは、聖霊降臨の日の人々のように、私たちが信仰に導き入れた聖霊の働きに心を向け、驚嘆の心を取り戻すということではないかと思えます。

それにしても、私たちは普通、今日の第一朗読で聞いたような、不思議な現象を伴った聖霊の降臨を体験することはありません。けれども、聖霊の私たちへの訪れを、最初の弟子たちが経験したような、直ちにそれと分かる不思議な

出来事に限定して理解しようとするのは私たちの思い違いなのかもしれません。

今日の福音においてイエスは、「私があなた方に遣わそうとしている弁護者、すなわち、真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証をなさるはずである。」と言っておられます。「聖書と典礼」の下の欄にある注を見ると、弁護者と訳されていることばは、もとの言葉ではパラクレートスと言ひ、その意味は「そばに呼ばれた者」ということです。このことばから考えると、聖霊とは、天の御父のもとに行かれたイエスがご自分に替わって私たちのもとに遣わしてくださった、私たちのための弁護者であると理解することが出来ます。その弁護者である聖霊は、私たちの近くに、私たちに寄り添っていてくださり、イエスについて証をしてくださるのです。聖霊によるイエスについての証とはどういうことでしょうか。聖霊はイエスこそが御父のもとから遣わされた、全ての人のためのメシア、救い主であることを証するのです。こうして聖霊はイエスに栄光を帰し、イエスを救い主として信じる私たちの信仰にそれこそが父なる神のみ心に沿った真理の道であるとの保証を与え、私たちの信仰の正しさを弁護してくくださるのです。

それにしても、そのような弁護者である聖霊はどこにおられるのかという疑念が起こるかもしれません。今日の福音の先のおことばから考えると、聖霊は神の霊として、私たちのそばに、私たちの傍らにいてくださるのです。聖霊は神様の霊のお姿でいてくださるので、私たちの目には直ちに見えるということはありません。それでも、私たちのそばに、私たちの傍らにいてくださるといふのは、弟子たちにとってイエスがそうであったように、聖霊は今も私たちのそばにおられ、私たちの傍らにいる人々を通して、私たちの中で働いてくださり、私たちに語りかけていてくださる、それが聖霊の現存の形なのだということが出来るのではないかと思います。そんなふうに思って、私たちの周りを見回せば、生きる意欲を失って、心の萎えかけていた自分に、イエスがそうなったように、父なる神様の愛のみ手を感じさせてくれたあの人、この人のことを思いおこすことができるはずです。生活に追われマンネリズムに陥っていた自分の信仰生活を揺り動かしてくれた、自分よりももっと過酷な生活状況の中にある人々の信仰の姿を思い浮かべることが出来るはずです。私たちの信仰の先輩である殉教者たちの姿を思い浮かべてもなく、信じ続けることの難しい、愛を貫いて生きることの難しいこの時代にあって、私たちは、私たちの傍らにいて、キリスト者として生きている多くのキリストの証人たちに出会っているはずです。今日ここ集っている私たち一人ひとりがお互い同士、そう受け止めることが出来さえすれば、私たちに聖霊の現存を感じさせてくれる信仰の

証人なのです。今日祝う聖霊降臨の祝いは、私たち一人ひとりを通して、今も私たちとともにあり、私たちのうちに働いてくださる聖霊への感謝の祝いでもあるのです。そのような感謝の心とともにして、この祝いの日に、私たち一人ひとりがより一層聖霊の促しに応じて、聖霊の助けのもとに、イエス・キリストの愛の証人として生きてゆけるようお願いしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高